

# 寝ても覚めても

主人公・朝子は大阪で謎の青年・麦（ばく）と出会い、恋に落ちる。しかし彼は姿を消してしまう。4年後、東京に引越した朝子は麦とそっくりな顔の男・亮平と出会う。似てるから好きになったのか、好きだから似てるように見えるのか...？

朝子の日常が淡々と綴られていく中で、麦と亮平に出会うシーンは印象的。平凡な毎日を送っていても、ある出来事で劇的に変わってしまうことってあるのかも、と思う。ラスト30ページは不安定な気持ちになりながらも次の展開が気になって、急いで読んでしまった。朝子の取った行動について、当時の私には理解できなかったが、何年か経った今、改めて読んでみると、案外受け入れられるようになっていた。

違和感がありつつもこの本が好きだった理由を考えると、光景描写が多く、独特の雰囲気味わえるからではないかと思う。朝子が見ているもの、朝子を感じていることが流れるように書かれていて、読むとそのまま彼女の追体験ができる。しかも彼女が使っている言葉は大阪弁なので、いつもの自分の調子で読めてしまう。人間が何かを見たり、考えたりしてる時って、こんな感じやんって思う。

この小説自体が映画みたいやと思ってたから、実際に観られるのが楽しみ。自分が読んだ時に思ったことと、他の誰かが思ったことは違うはずやから、その解釈を目や耳で感じられる機会があつてうれしい。

著者の柴崎友香さんは、朝日新聞の夕刊に月1回、「季節の地図」というコラムを連載されている。今月は『寝ても覚めても』の映画の大阪弁の発音について書かれていた。その中で興味深かったのは、

『以前、小説の感想で「大阪弁には『ててんて』なんていうかわいいうりズミカルな言葉があるのか』と書いてあった。「.....しててんて」の「ててんて」。』

確かに文字で見ると可愛らしい響き。神戸だと、「.....しとってんて」になるかな？どこの地域の方言でも、そのまま書いてみるとおもしろいかもしれない。と思って、今回はそのテイストを取り入れてみました。

Tofubeatsが書き下ろした主題歌『RIVER』がYouTubeで公開されています。

映画素材を使用していてとても素敵なので見てみてね。

映画は第71回カンヌ国際映画祭コンペティション部門に出品、世界20ヶ国での配給も決定している。主演：東出昌大（2役）、唐田えりか。監督：濱口竜介。映画音楽：tofubeats。ロケ地のひとつとして、六甲アイランドにある神戸ファッション美術館が使用されたそう。朝子と麦が初めて出会うシーンとのことなので、注目！映画の公開に合わせて小説は増補新版が出版された。増補新版には書き下ろしの小説×マンガ『同じ街の違う夜』を収録。マンガは森泉岳土。

柴崎友香（しばさき・ともか）

1973年、大阪府生まれ。2000年、『きょうのできごと』で作家デビュー。同作は行定勲監督によって映画化。『その街の今は』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、織田作之助大賞、咲くやこの花賞、『寝ても覚めても』で野間文芸新人賞、『春の庭』で芥川賞を受賞。著書に『きょうのできごと、十年後』『パノララ』『千の扉』他多数ある。

濱口竜介（はまぐち・りゅうすけ）

1978年、神奈川県生まれ。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了制作『PASSION』がサン・セバスチャン国際映画祭や東京フィルメックスに出品され高い評価を得る。15年、映像ワークショップに参加した演技経験のない女性4人を主演に起用した5時間17分の長編『ハッピーアワー』を発表し、ロカルノ、ナント、シンガポールほか国際映画祭で主要賞を受賞。

tofubeats（トーフビーツ）

1990年生まれ神戸在住。中学時代から音楽活動を開始し、高校3年生の時に国内最大のテクノイベントWIREに史上最年少で出演する。その後、「水星feat.オノマトペ大臣」がiTunes Storeシングル総合チャートで1位を獲得。メジャーデビュー以降は、人気アーティストと数々のコラボを行い注目を集め、3枚のアルバムをリリース。

